

== 関係部署にご回覧下さい ==

LPGC Report

エルピーガス振興センターレポート

第25号 July 2004

(財)エルピーガス振興センター 新旧理事長挨拶	1
平成16年度第一回評議員会・通常理事会 開催内容	3
設備助成事業室からのお知らせ	6
・高効率給湯器導入支援事業	
事務局からのお知らせ	7
・第14回 研究成果発表会 開催案内	
・WLPGAフォーラム 開催案内	
・新刊書 「よくわかるLPガス需要開拓読本 - 地球温暖化対策に貢献し LPガス産業の未来を拓く - 」(仮題) 発刊のお知らせ	
・LPGCパンフレットを作成しました	
・(財)エルピーガス振興センター組織図	
編集後記	10

(財)エルピーガス振興センター 新旧理事長挨拶

武内 正明 新理事長

このたび、(財)エルピーガス振興センター理事長に就任いたしました武内です。
どうぞ、宜しくお願い致します。

近年、私共LPガス産業を取り巻く状況が、大きく変化してきております。
エネルギー基本法におけるLPガスの明確な位置付けや、エネルギー需給計画
における明確な数値的記載などについては、皆様御承知のとおりであります。

これらのことは、私共LPガス産業従事者に取りましては、大きな励みである
とともに、系統的な取り組みが一層求められていることであると、認識するところであります。

一方、近年の規制緩和・自由化の流れは、エネルギー分野においても、急速な進展が図られており、各種の
エネルギー間競争が、激化してきていることも、ご承知のとおりです。そのような状況下においては、私たちLPガス
産業に関わる者も、自らの意義を明確にし、アピールしなければ、この競争の中で埋没しかねません。ここでも、
従来にもまして、業界を上げた、系統的な取り組みが、求められてきています。

振興センターは、平成元年の設立以来、わが国のLPガス産業の活性化を推進する中枢機関として、LPガスの
安定供給・流通効率化・環境問題対応の3つの側面で、技術開発・調査研究・各種助成・国際交流等の事業を
推進し、関係者の方々から、一定の評価を頂いてきております。

吉田前理事長時代には、国際交流セミナーにおける産消国間対話の活発化や、将来対応技術開発の推進や、
各種補助事業の拡充などを、進めていただきました。

これらの実績をもとに、更なる発展を期すべく平成16年度の事業計画を策定し、実施に着手しております。従い
まして、まずは、これらの案件の当初計画どおりの進捗を確実に図るとともに、上記のような状況に、より直接的な
貢献が期待されるような事項に対して、皆様方からのお知恵を拝借しつつ、取り組んでいきたいと思います。

LPガス産業の今後の発展のためには、LPガス産業の各団体における将来をにらんだ積極的な戦略の立案や
提言と、当センターにおける各種事業の着実な推進が、両輪のように相互に機能し合っていくことが、何よりも重要
と認識いたします。

振興センターが、皆様方のご期待にそえますように、私も精励してまいりますので、皆様方に置かれましても、
どうぞ今後とも、更なるご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



吉田 清 前理事長

去る6月の理事会におきまして、理事長の退任につきご承認頂きました。4月より日本LPガス協会の会長をお引き受けしたことによるとはいえ、やはり任期中途であり志半ばの感は拭えません。

この間、皆様方のご支援・ご協力によりまして、理事長の職責を果たすことができましたことをご報告申し上げるとともに、厚く御礼申し上げる次第です。

お陰様をもちまして、後任には武内正明氏が就任致しました。私に寄せて頂きましたご支援・ご協力を引き続き後任者にも賜りますようよろしくお願い申し上げます。



振興センターの活動がLPガス産業の一層の活性化と関係各位の発展につながることを念じつつ、“最重要課題は需要開発”との認識のもと、LPガス産業の振興およびお客様の利便性向上に貢献すべく、事業展開に向け微力を傾注して参りました。

幸いにして、関係ご当局の適切なご指導も頂きながら、着実な活動成果を挙げるとともに、関係方面より高い評価とご期待を寄せて頂くことができました。

とりわけ、公益法人改革に対応して今後の進むべき方向に一石を投じることとなった公募方式による「LPガス固体高分子形燃料電池システム開発」および「DME燃料実用化基盤実証試験」に目途がついたこと、あるいは国際交流セミナーにおいてサウジ・アラムコ社と真摯に、かつ、核心的な対話を実現したことなどが印象に残ります。

その他の事業につきましても、構造改善事業としての「充てん所統廃合支援事業」や地球温暖化対策としての「高効率給湯器導入支援事業」など、補助事業の拡充をあげることができます。また、広報室を新設し、各種広報活動の充実を目指した新たなスタートも実現することができました。また、自主事業としての各種セミナーの開催や出版事業もささやかながら第一歩を踏み出せたことも記憶に残るところです。

更にエネルギー基本計画、需給部会の審議過程において、「LPガスが独立した一次エネルギー」として位置付けられたことは極めて大きな出来事でした。今後益々、それに相応しい産業となるためにも、責任が増大することを考えれば、身の引き締まる思いも致します。

国際的にも波乱含みのイラク問題や世界的なエネルギーの需給問題、あるいは国内的にも電力自由化の進展やオール電化対策などエネルギーを巡る状況は益々混沌の状況にあります。このような中、従来にも増してLPガスの消費者への広報活動の必要性が叫ばれるなど、振興センターに対する期待には益々大きなものがあります。

(財)エルピーガス振興センターが、武内新理事長のご指導の下、大いにその実力を発揮され、LPガス産業全体の発展と振興に益々寄与されますよう祈念申し上げて、退任の挨拶と致します。

平成16年度第一回 評議員会・通常理事会 開催内容

去る6月17日に(財)エルピーガス振興センターの「平成16年度第一回評議員会、第一回通常理事会」が開催されました。今回は役員の変更時期ではありませんが、吉田前理事長の辞任に伴い武内新理事長の選任を承認可決致しました。

理事長	新	武内 正明	コスモ石油ガス(株) 代表取締役社長
	旧	吉田 清	新日本石油ガス(株) 代表取締役社長

事務局長	新	柴田 伸夫	コスモ石油ガス(株)より、当センター総務部長を経て就任
	旧	郷戸 義文	新日本石油ガス(株)へ復帰

平成16年度第一回評議員会は6月17日午後1時から開催され、理事会への上程議案を審議し全会一致で承認されました。

引き続き、午後3時より平成16年度第一回通常理事会が開催され、理事長挨拶に続き、ご来賓の資源エネルギー庁液化石油ガス産業担当企画官の小野裕章氏よりご挨拶を頂きました。

議案とその審議内容については以下のとおりです。***マーク**につきましては、振興センターのホームページ (<http://www.lpgc.or.jp>) に掲載してありますので、ご参照下さい。

全ての議案は全会一致で承認可決され、滞りなく終了致しました。

第1号議案 平成15年度事業報告及び決算報告並びに収支差額処分の件 ***ホームページ掲載**

第2号議案 理事選任の件

退任理事	長尾 哲哉	前 出光ガスアンドライフ(株) 代表取締役社長
	大久保 武彦	前 (株)ジャパンエナジー 取締役常務執行役員
	村木 茂	前 東京ガス(株) 執行役員原料部長
	清水 洋一	前 シナネン(株) 常務取締役
	荒木 穰	前 東京ガスエネルギー(株) 代表取締役社長
就任理事	児玉 宣夫	出光ガスアンドライフ(株) 代表取締役社長
	宮川 雅夫	(株)ジャパンエナジー 常務執行役員
	救仁郷 豊	東京ガス(株) 原料部長
	中村 源治	シナネン(株) 常務取締役
	横内 稔	東京ガスエネルギー(株) 代表取締役社長

第3号議案 理事長選任の件 前掲のとおり

第4号議案 評議員委嘱の件

退任評議員	岩越 忠通	(前 (株)損害保険ジャパン 取締役)
就任評議員	高宮 洋一	((株)損害保険ジャパン 常務執行役員)

第5号議案 事務局長委嘱の件 前掲のとおり

第6号議案 寄附行為実施細則の変更の件

第7号議案 平成16年度収支予算の一部変更の件 ***ホームページ掲載**

1. 受託事業計画 経済産業省受託事業

<p>(1) 石油製品需給適正化調査 石油ガス流通合理化調査</p> <p>石油ガス販売事業者経営合理化等対策 石油ガス流通の合理化、近代化の促進、取引の適正化を図るため、石油ガス販売事業者、一般消費者等に対して石油ガスに関する各種講習会、啓蒙広報を行う。</p> <p>液化石油ガス懇談会 液化石油ガスの流通や取引等の諸問題について、石油ガス販売事業者と消費者との信頼関係をより一層醸成させるため、石油ガス販売事業者、消費者等による液化石油ガス懇談会を開催する。 (中央懇談会、地方懇談会)</p> <p>石油ガス流通合理化推進調査 石油ガス流通の近代化の促進、取引の適正化を図るために、石油ガス流通合理化推進のための調査を行う。</p>
<p>(2) DME燃料実用化基盤実証試験研究 DME流通インフラの転用実証試験研究</p> <p>DME(ジメチルエーテル)の利用・普及にあたって、LPガスインフラ転用の可能性を検証するため、DMEのLPガス設備への影響を調査し、実際のLPガスインフラを使用して貯蔵・輸送・供給に係るフィールドテストを実施し、LPガスインフラ転用の可能性を検証する。</p> <p>平成16年度は、最終年度にあたり、引き続きDME実証試験設備による設備・機器に対する試験を継続するとともに、輸送手段(船舶、ローリー等)についての転用可能性なども調査し、3年間の実証試験研究で得られた知見をベースに、LPガス設備のDME転用化の可能性についてまとめる。</p>
<p>(3) 石油産業体制等調査研究 石油ガス開発等供給多様化調査</p> <p>わが国のLPガス輸入ソースの多角化を図り、LPガスの安定供給、供給多様化に資するため、LPガス開発可能性調査、LPガス需給調査、国際市場調査等を実施する。</p> <p>平成16年度においても、産ガス国のLPガス開発可能性、輸出可能性等の調査を行うとともに、消費国のLPガス需給等の調査を実施する。</p> <p>また、世界のLPガス市場における価格形成、取引形態の特性についても調査する。</p> <p>さらに、各地で開催されるセミナーやフォーラムに出席し、わが国へのLPガスの安定供給に資するため、世界のLPガス需給予測、価格動向等の最新情報を収集する。</p>

2. 補助事業計画 経済産業省補助事業

<p>(1) 石油ガス国際交流事業</p> <p>石油ガス国際交流事業として、平成16年度においても、サウジアラビアをはじめ産ガス国、消費国等のLPガス関係者を招へいし、「LPガス国際セミナー」を開催し、LPガス関係諸国とのより密接な情報交換を通じ協調と対話を促進する。</p>
<p>(2) LPガス充てん所の統廃合に対する支援事業(予定)</p> <p>LPガスの流通合理化を図るため、LPガス充てん所の統廃合を目的とし、統廃合によるLPガス充てん所廃止に伴う撤去費用の一部を補助する。</p>
<p>(3) 石油ガス利用設備導入促進対策事業(新規 予定)</p> <p>石油ガスエネルギーを利用する高効率熱電併給システム(コージェネシステム)の導入促進を図ることを目的とし、石油ガスコージェネシステムを導入設置するために要する経費の一部を助成するものである。</p> <p>本事業は、従前のモデル事業を対象とする助成ではなく、導入促進という観点からの小型から中型規模のコージェネシステムを対象としている。</p>

(4) 高効率給湯器導入支援事業
<p>潜熱回収型給湯器 地球温暖化対策として、高効率給湯器(LPGガス燃料とする潜熱回収型給湯器)の円滑な導入のため、設置に要する費用の一部を補助する。</p> <p>ガスエンジン給湯器 地球温暖化対策として、エネルギー効率の高いガスエンジン給湯器の円滑な導入のため、設置に要する費用の一部を補助する。</p>
(5) 家庭用高効率小型ガス冷房機器導入促進事業(GG特別会計)
本事業は、平成12年1月で新規の取扱を終了し、既存分の利子補給は平成17年1月まで行われる。

(3) 共同研究事業計画 新エネルギー・産業技術総合開発機構共同研究事業

LPガス固体高分子形燃料電池システムの開発
<p>LPガス固体高分子形燃料電池システムの開発に向けて、LPガスの改質に係る触媒、システム化等の要素技術の開発を行うとともに、1kW程度のLPガス固体高分子形燃料電池システムを試作・評価することにより、問題点・開発課題を抽出し、家庭用燃料電池システムの高効率化・小型化を図る。</p> <p>平成16年度は、まず、前年度に試作した各方式の水素製造システムを試験・評価し、開発課題の抽出を行う。抽出された課題については、改良検討を実施し、最適な水素製造システムを試作するとともに、燃料電池本体と接続して水素製造システムの性能を検証する。</p> <p>また、最終年度(平成17年度)に向けて、開発した水素製造システムを用いた燃料電池システムを試作し、評価を開始する。</p>

(4) 自主事業計画

(1) 機関誌等制作事業
<p>当財団の活動を紹介する「LPGC2004」を制作し、会員・LPGガス関連団体等に広く、かつ、効果的に配布、PRする。</p> <p>「海外LPG情報」「LPGCレポート」を継続して作成し、会員・LPGガス関連団体等に広く、かつ、効果的に配布、PRする。</p>
(2) 国際協力事業
<p>海外諸国との相互理解の促進と技術面等における国際協力を推進するため、次に掲げる諸事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界LPGガスフォーラム等への参加及び情報収集活動 ・海外LPGガス関連団体等との交流
(3) 普及啓発事業
<p>当財団の研究成果発表会を開催し、当財団の技術開発・調査研究事業及び補助事業等について、理解を深めるため、その成果を広くLPGガス関係者に公表する。</p> <p>当財団で実施した技術開発・調査研究の報告書の要約版を作成し、会員・LPGガス関連団体等に広く配布するなど、普及啓発を図るとともに、会員相互の交流を図る。</p> <p>ホームページを積極的に活用し、情報公開・情報発信に努める。</p> <p>前年度同様、時宜を得たテーマを選定し、セミナーの開催に努める。</p> <p>前年度に引き続き、LPGガス販売事業者の構造改善事業に資するため、テキストの編集・発刊に努める。</p>
(4) 連携協力事業
<p>LPガス関連団体等と連携し、共通する課題等の抽出とその解決策を検討するための検討会・勉強会等の活動に対する事務局として活動するとともに、必要となる調査等について協力する。</p>

設備助成事業室からのお知らせ

・高効率給湯器導入支援事業

振興センターが、平成16年度の補助事業として募集している高効率給湯器導入支援事業(潜熱回収型給湯器とガスエンジン給湯器)補助金の利用が加速しています。

同制度は、省エネ対策として地球温暖化の原因であると言われているCO₂の排出量を削減するため、高効率給湯器の導入を支援し、普及促進を図るもので、制度の周知浸透により高効率給湯器を取り扱う事業者が増加してきています。また、当制度を販売に上手く活用することで需要開拓につなげる事業者が目立ってきています。

省エネは、我が国の喫緊の課題であることから、より多くの事業者が、当制度を活用して高効率給湯器の普及を促進することを期待しています。

1. 応募台数

分類	4月	5月	6月	4～6月計	15年度計	前度年比
潜熱回収型給湯器	8	90	142	240	693	35%
ガスエンジン給湯器	4	103	125	232	236	98%

15年度の募集期間は、潜熱回収型給湯器が5/30～2/10で、ガスエンジン給湯器が8/27～2/10です。
16年度の募集期間は、4/23～2/10です。

2. 機種別応募台数

分類	機種	応募台数	比率
潜熱回収型給湯器	給湯単能機	10	4%
	風呂給湯器 自動	151	63%
	温水端末対応 風呂給湯	79	33%
	小計	240	100%
ガスエンジン給湯器	発電能力(1kW)	214	92%
	発電能力(1kW以外)	18	8%
	小計	232	100%

3. 高効率給湯器普及のポイント

複数台申請している販売事業者は、お客さまに対し以下のポイントを説明し、販売につなげております。

- (1) 省エネ性と環境負荷貢献の必要性を提案(特に灯油ボイラーのお客さまへ)
- (2) 省エネ性を生かし大型給湯器への切り替えによる快適な生活を提案
- (3) 省エネ分で床暖房等の快適な生活を提案

4. 手続き代行件数上位者

申請者の代わりに手続き代行している事業者の中で、上位件数の事業者は以下のとおりです。

No	潜熱回収型給湯器		ガスエンジン給湯器	
1	(株)森燃	(岩手県)	伊丹産業(株)	(兵庫県)
2	(有)星野燃料店	(静岡県)	ダイヤ燃商(株)	(三重県)
3	桐生マル斗(株)	(群馬県)	積水ハウス(株)	(熊本県)
4	(有)斉藤商店	(茨城県)	(株)パワーズ・トレイン	(新潟県)
5	広島ガス高田販売(株)	(広島県)	岩谷設備システム(株)	(兵庫県)

5. 予算額

- (1) 潜熱回収型給湯器 6.9億円 / 12,000台(LPガスと都市ガス)
- (2) ガスエンジン給湯器 15.0億円 / 6,000台(LPガスと都市ガス)

* 当制度についてご不明な点がございましたら、お気軽に設備助成事業室 担当:佐々木、内田(浩)、直通TEL:03-3507-0047 までお問い合わせください

事務局からのお知らせ

・第14回 研究成果発表会 開催案内

詳細については決まり次第ご案内させていただきますが、以下の予定としております。

第14回 研究成果発表会プログラム(予定)

日時：平成16年10月13日(水) 10:00～16:00 (予定)

場所：発明会館 大ホール(地下2階)

発表会次第：

- | | | |
|--|-----------|--------|
| 1. 開会挨拶 | 理事長 | 武内 正明 |
| 2. 来賓挨拶 | | |
| 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油流通課 | 企画官 | 小野 裕章 |
| 3. 研究成果発表 | | |
| 技術開発関係 | 3 テーマ | |
| 流通合理化関係 | 1 テーマ | |
| 4. 講演 | 『講演テーマ未定』 | |
| 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構
石油・天然ガス調査グループ グループリーダー
主席エコノミスト | | 石井 彰 氏 |
| 5. 研究成果発表 | | |
| 調査研究関係 | 3～4 テーマ | |
| 6. 閉会の辞 | 専務理事 | 中村 統一 |

= 16時を終了予定としています。 =

< 講演講師 石井 彰 氏 略歴紹介 >

大学卒業後 日本経済新聞記者を経て、エネルギー関連団体に従事後、1981年からハーバード大学国際問題研究所客員となり、1989年より欧州に滞在して世界の石油・天然ガスを中心にエネルギー問題全般を研究。

現在、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 の主席エコノミストとして活躍。

近年の中東情勢の変動をめぐる世界的な石油需給の構造的変化を明瞭に描き出した著書『世界を動かす石油戦略』(藤和彦氏との共著、筑摩書房)は、本年3月にエネルギーフォーラム賞優秀賞を受賞し、エネルギー関係者の注目となっている。

今回の講演では、石井氏のエネルギー問題に対する幅広い知見をもとに、上流分野を含めた世界のガス・石油需給に何が起きているのか、今後どうなってゆくのか などについても講演頂く予定です。

・WLPGAフォーラム 開催案内

恒例の第17回世界LPガス協会フォーラムが、下記のとおり開催されます。

1. 開催時期 : 平成16年9月30日(木)～同10月1日(金)
2. 場所 : ベルリン(ドイツ) Hotel Intercontinental Berlin
3. 参加費 : 1,350 ユーロ(メンバー社、団体は 1,150 ユーロ)
4. 参加申込先 : Colloquium (フォーラム事務局)
12, rue de la Croix Faubin - 75557- Paris, France
Tel: 33-1-4464-1515, Fax: 33-1-4464-1516
E-mail: worldlpgas@colloquium.fr

フォーラム内容は、まず世界のLPガス市場の現状と、今後の見通しについて、次にヨーロッパにおけるLPガスの諸問題の見直し、更にオートガスの発展についての議論やLPガスの郊外地域での利用に関する発表が行われる予定です。

また、LPガス代替としてのDMEに関する発表も予定され、盛り沢山の会議となることが期待されています。

・新刊書 「よくわかる LPガス需要開拓読本 - 地球温暖化対策に貢献し、

LPガス産業の未来を拓く - 」(仮題) 発刊のお知らせ

(財)エルピーガス振興センターでは(社)日本エルピーガス連合会、日本LPガス団体協議会の要望に応え、「よくわかる LPガス需要開拓読本 - 地球温暖化対策に貢献し、LPガス産業の未来を拓く - 」(仮題)を編集・発刊することとなりました。

本冊子は、LPガス販売事業者を対象にして、日本がエネルギー問題を解決する上で地球温暖化防止対策が喫緊の課題であることを紹介し、その中でLPガスがクリーン性、分散型エネルギーの特徴をもち、地球温暖化防止対策に欠かせない重要なエネルギーであることを説明しています。

LPガスの良さを活かす省エネルギーガス機器である「ガラストップコンロ」「高効率潜熱回収型給湯器」「GHP空調機器」「エコウィルを初めとしたコジェネレーション機器」を取上げて、LPガスの需要開発を如何に進めるか、競合エネルギーの動向等について分り易く解説し、LPガス事業者にぜひとも読んで頂きたい内容になっています。

現在 執筆・編集中でありますが、8月末の発刊を目指しております。

近々、内容が固まり次第皆様にご案内させていただきます。

・LPGCパンフレットを作成しました

平成16年度の(財)エルピーガス振興センターの紹介パンフレットを作成しました。

本年度は理事長の交代時期にあたり、紙面も一新しました。

特徴は英文の案内を同一面に掲載し、従来の2種類のパンフレットを一本化しました。

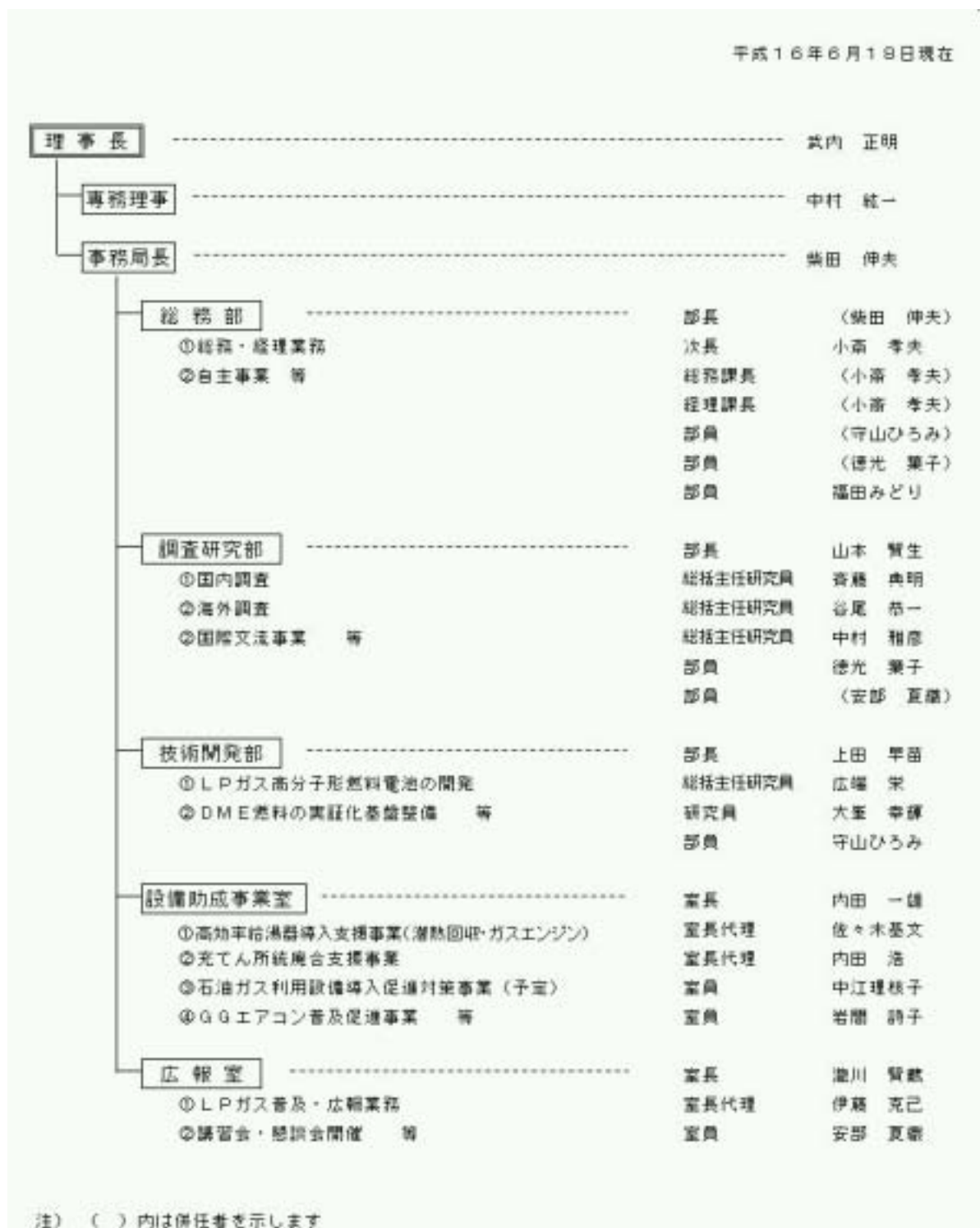
また、紙面を従来よりも圧縮し、センター概要、事業内容、15年度実施の調査研究成果などを各事業部門別に簡略に紹介しています。なお、事業内容の詳細につきましては別にホームページや個々の報告書で詳しく説明していますのでご覧下さい。

これまで英文パンフレットは数年毎に作成し、国際セミナー、海外研修会議などに使用していましたが、内容の変更や直近の出来事が説明できないなど不便もあり、今年度は日本文を主体にして、英文での解説を付け、一体化したものです。

7月中旬に完成し、賛助会員の皆様に配布させていただきます。また、ホームページにも掲載しております。

・(財)エルピーガス振興センター組織図

平成16年度の振興センター組織および職員体制は以下のとおりです。



編集後記

最近のLPガス業界にとっての最大のニュースは、吉田清前理事長が委員として出席されている総合資源エネルギー調査会需給部会において「2030年のエネルギー需給見通し」が報告され、この中ではじめて「LPガス」が独立して明記されたことのように思います。

LPガスの供給量は、レファレンス(自然体)ケースで、2010年は19百万トﾝ、2030年で23百万トﾝとして、全エネルギーに対する比率も今後増加すると見通し、重要なエネルギーとしての位置付けがより鮮明にされたことは、LPガス業界の永年の念願が叶った朗報でした。

ご案内の通り振興センターは、平成16年度第一回通常理事会で理事長が代わり、6月17日付で武内正明新理事長をお迎えました。

吉田前理事長には、LPガス国際セミナーでの名司会、広報室の新設、高効率給湯機の普及促進、自主事業等にご指導いただき誠に有り難うございました。

LPガスの位置付けが高っていますが、エネルギー間競争が益々激しくなる中で、この位置付けを実現するには相応の努力が必要で、当センターの果たすべき役割も高まっていると認識しています、武内新理事長の下センター一丸となって頑張ってお参りますので、宜しくお願い申し上げます。

さて、本紙の各部・室からのお知らせの通り

設備助成事業室では、高効率給湯器導入促進事業(潜熱回収型給湯器、ガスエンジン式給湯器)や、充填所統廃合支援事業を今年は早期に開始し、多くの皆様に補助金をご利用いただくように進めています。

高効率給湯器の6月までの応募件数は快調ですが、電気・都市ガスの競合エネルギーはそれにも増して快調ですので、LPガスは負けていけないところです。

今年度の研究成果発表会は10月13日に決まりました、回を重ね今回で14回目になります、多数の皆様のご参加を宜しくお願いします。

昨年構造改善事業セミナー用テキストを作成しましたが、本年も作成しています。

本テキストは、日本LPガス団体協議会が進めているLPガスの需要拡大戦略にも役立つように構成し、日本LPガス団体協議会、(社)日本ガス石油機器工業会、GHPコンソーシアムの協力を得て作成しています。

題名は「よくわかるLPガス需要開拓&地球温暖化対策読本」です。

内容はご案内の通りですが、これから開催される日本LPガス団体協議会、県協会等のセミナーにおいて利用され、LPガスの需要開拓・拡大に繋がることを願っています。

発刊は出来るだけ早くにとのことで、センターのテキスト編集事務局は8月20日前後に発刊することを目標に努力しています。

今年は、太平洋側は梅雨明けが早く猛暑が続き、日本海側では新潟県、福井県に梅雨が停滞して集中豪雨となっています。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

LPガス業界関係各位の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

財団法人 エルピーガス振興センター



〒105-0001

東京都港区虎ノ門一丁目19番5号 虎ノ門一丁目森ビル

TEL : 03 - 3507 - 0041 (代表)
 03 - 3507 - 0046 (広報室)
 03 - 3507 - 0047 (設備助成事業室)

FAX : 03 - 3507 - 0048 (代表)
 03 - 5251 - 3663 (設備助成事業室)

ホームページURL <http://www.lpgc.or.jp>

Eメールアドレス info@lpgc.or.jp

送付先変更等のご連絡は、現在の送付先と変更後の送付先を明記の上、FAX又はEメールでお願いします。